



←江戸川の堤防に生えるアブラナ科の植物が芽を伸ばしてきた。まもなく多くの人たちが花芽を摘みにやって来るだろう。なにしろ今年は野菜が異常に高かったのだから。

→江戸川もようやく春らしい色になってきて青く輝いている。

みんなの話題が朝から一緒になるという日も珍しい。

十八日の朝は、

「見たア、テレビ……」

「すごかったねえ、昨日は……」

会う人、来る人、みんな同じ話が話題になった。

十七日に行われた平昌オリンピックのスケート競技のテレビ中継を、ほとんどの人が見ていたのだろう。

羽生結弦が金メダル、宇野昌磨が銀メダルを取ったあの試合のことだ。実況中継でもやったが、各テレビ局がワイドショーではもちろんニュースでもやり、ほぼ一日中、ふたりの話題でもちきりだった。

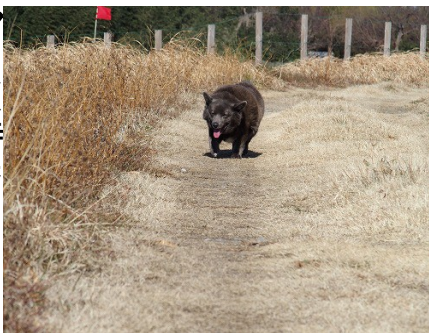
したがって矢切の渡しでも、舟頭さんしかり、来る客、来る客、みんなが羽生の話で盛り上がっていたわけだ。

長いこと矢切の渡しへ通っているがこんなにも共通した話題で盛り上がったことはない。それくらい大きな出来事だったということなのだろう。

次ぎに話題になったのが豪雪のことだ。北陸地方を筆頭に東北地方の日本

## 今週のクマ

→ようやく暖かくなってクマも気持ちよさそうに散歩を楽しむ。



→地上と違って大地の温度は確実に上がっているのだろう。真夏に花を咲かせるキツネノカミソリが芽を出した。これから葉を伸ばし、枯れたところに花芽を伸ばして花が咲く不思議な植物。



海側、それに北海道にかけて大雪が降った。特に福井県では三日間に渡って車が立ち往生してニュースで流れた。

一方、北海道では大雪に加えて台風並の風が吹き荒れ、これも繰り返してテレビで報じられた。

「いまだったらホツカイロだとか、アノラックだとかあって防寒できるけどヤツさんなんかのころはどうだったの？」

舟頭さんが五十年近く前に北海道大学に通っていたヤツさんに聞いた。

「もちろんホツカイロみたいな便利なものはないさ。アノラックなんかもない。学生服の上にせいぜいマントだよ。マントっていったって、いまの人たちのはわからないだろうなア」

もちろん矢切生まれの舟頭さんにはわかるはずがない。岡山県生まれでヤツさんが北海道にいたころは東京に出てきていた私もわかるはずがない。

「カイロっていうえば、いまみたいに手でもむんじやなくて、金属製で桐灰に火をつけて入れたり、ベンジンを入れて火をつけていたよね」

と、舟頭さんは昔を懐かしむ。たがいに年をとったものだ。もう過去の人。